

Un jour

青森市男女共同参画情報紙

—性別・世代・時代を超えて—

2019.9
No.55



子育ては...
「すべてが超大変！」



特集

育児参加
パパたちに
聞いてみた！



でも
「本当に楽しい！」



共働き世帯が専業主婦世帯を上回る今、高度経済成長期を支えた「男性は外で働き、専業主婦の妻が支える」という家族のカタチは大きく変化しました。育児だって例外ではありません。今は、まだ、育児の負担が女性に偏っている状況にあります。女性だけが家庭と仕事の両立を求められる時代ではなくなりました。

二度と同じ時が来ない育児の時間。

それぞれの家族がその家族に合った育児のカタチを見つけ出しています。あなただったらどんなカタチを選びますか？

特集記事へつづく



アンジュールはフランス語で「ある日」という意味。一人ひとりの「ある日」を紡いでいきたいという願いを込めた情報紙です。

輝きびと 山内 リチャードソン 澄子 さん ご夫婦 ジェイコブ リチャードソン さん



澄子さんは2016年にGLOBAL TABLE合同会社を起業。地元ビジネスと訪日外国人観光客のコミュニケーションを円滑にするための環境整備支援や、地元住民と訪日観光客との距離を縮める着地型コンテンツの企画運営を行う。ジェイコブさんは青森県立保健大学で語学講師として勤務しながら、家事、育児を積極的にこなしている。固定的性別役割分担意識に捉われることなくお互いの得意分野を活かし、家族にとってベストなカタチをつくりだしているご夫婦。

「私は正直仕事が大好きです。仕事を引き受けたら、相手に満足してもらえて、自分も満足できる仕事をしたい。そのためには時間をかけます。昔のモーレツサラリーマンみたいなのかも。」
自信に溢れ、しっかりと目を見て話す山内リチャードソン澄子さん。インバウンド事業を手掛ける会社『GLOBAL TABLE』の代表です。

日本から米国、そしてまた日本へ

市内の高校を卒業後、留学を夢見ていたものの、両親の希望に沿うように日本の大学に進学した澄子さん。しかし、留学の夢を捨てきれずに大学を中退し、単身で米国に渡り、大学、大学院へと進み修士号を取得。ニューヨーク市でソーシャルワーカーとして働きはじめ、大学時代に知り合ったジェイコブさんと結婚。長女も誕生し、ふと気づくと、米国での暮らしは10年に。「自分が培った経験を活かしたい」と2010年に長女を連れて日本へ帰国。当時、ジェイコブさんは韓国で英語教師をしていましたが、2011年の大震災をきっかけに、家族が近くにいることの大切さを感じ、ジェイコブさんも青森に。

市民図書館のおすすめ本



『のろのろ歩け』
中島 京子 著 文春文庫

北京、上海、台湾を舞台にした3篇の物語。主人公は、キャリアウーマン、駐在員の妻、亡き母の知人を探す女性。異国の地で人生を見つめ直し、ゆっくり前に進もうとする姿が描かれている。短時間で読める分量と、ちょっとした旅行気分も味わえるので、忙しい日々を送っている方、新たな一歩を踏み出せずに悩んでいる方にお勧めしたい本である。

<発行>
青森市 市民部 人権男女共同参画課
〒030-8555 青森市新町1-3-7
☎017(734)2296 FAX017(734)5765
<編集スタッフ>
倉島恵美子・蝦名晶子(特定非営利活動法人あおもり男女共同参画をすすめる会)、
堀内美穂(特定非営利活動法人ウィメンズネット青森)、
千代谷直美(企画集団プティジュール)

※転載ご希望の場合はご連絡ください。

「起業」しか選択になかった

青森に戻った澄子さんは様々な仕事に就いたものの、自分が積み上げてきた経験を十分に活かせず、子育てにも追われる日々。自宅で仕事をしていると、「育児、家事をしなれば」と焦り、「自分には青森で一体何ができるのだろう」と自問自答の日々だったそうです。そんな中、訪日外国人観光客が多くなった社会の転換期を捉え、次男が生まれてすぐの2016年に青森と外国人旅行者を繋ぐインバウンド事業を起業。「起業しか選択肢になかった」と話します。

子どもの成長と妻の活躍が自分の喜び

起業により、家事と育児は主にジェイコブさんが担当し、澄子さんは自分の仕事を成長させるため、惜しまず努力すると夫婦で話し合ったそうです。「子どもももっと一緒に過ごしてあげたいという葛藤もある」と正直なお話も聞かれましたが、多忙になる前や仕事が一段落したときには家族との時間を増やし、メリハリをつけているのだとか。澄子さんの出張中、家事・育児を主に引き受けているのは、ジェイコブさん。大学で講師として勤務しながら、家族を支えています。「私の仕事は時間を調整しやすく、仕事と家事・育児を両立できる環境にあることがラッキーだったと思う。最初は確かに大変だったけど、子ども達も大きくなるにつれて段々と楽になってきた。子ども達と過ごす時間がたくさんあり、彼らの成長と妻の活躍や妻の仕事が成長していく様子を見られることが喜び」「自分のことばかり考えるのではなく、妻が何をしてほしいのか、何が必要なかを考えるようにしている」と話します。

自分には強さと経験がある

子ども達に対しては、「世界中、いろいろな国を知って、自分の人生は自分で考えて選択してほしい。どこに行っても生きていけるたくましさや身を着けてほしい」と期待を語ります。「先日、出張でフランスへ行く途中に飛行機がモンゴルの上空を飛んでいた間、世界の広さを改めて実感し、「自分には日本と海外で身に着けた強さと経験があるから、世界中どこに住むことになっても大丈夫！」と直感で思ったんです。これからも世界と青森を繋いでいきたい」と話す澄子さんの目は輝いていました。

アンジュールVIEW

みなさんは「LGBT」について正しく理解できていますか？
「LGBT」とは下記の言葉の頭文字をとって組み合わせた言葉で性的マイノリティ(性的少数者)の総称の一つとして使われています。

- L** レズビアン 女性の同性愛者
- G** ゲイ 男性の同性愛者
- B** バイセクシュアル 両性愛者
- T** トランスジェンダー こころの性とからだの性の不一致

LGBTの当事者は少数派であるため、周囲の無理解や偏見から様々な困難を抱えることがあります。「青森市男女共同参画推進条例」では、「性別及び性に起因する差別的な取扱い」を禁止事項として規定しています。多様な性について理解し、性のあり方が大多数の人とちがうことによる偏見や差別をなくしましょう。

性的マイノリティにじいろ電話相談

LGBTをはじめとする性的マイノリティの方々、ご家族、ご友人などのさまざまな悩みに関する相談をお受けします。

☎ 017(776)8803【専用】
毎週火曜日(年末年始除く) 午前9時~午後9時

育児参加

パパたちに聞いてみた!

★育児ってどうですか？

三上 毎日が新しく、戦っています。子どもも、私たちも成長するので、同じ1日はないです。
中澤 1日があつという間。気づいたら夕方です！息つく暇もないですね。育児休業中は基本的にほぼ毎日、やりたいこともできず、自分自身が疲弊しているところがありました。
平山 子どもが小さい頃のことを振り返ると大変なこともありましたが、基本的に楽しかった。今はまた違った楽しさと大変さがあります。

★一番大変だと思うことは？

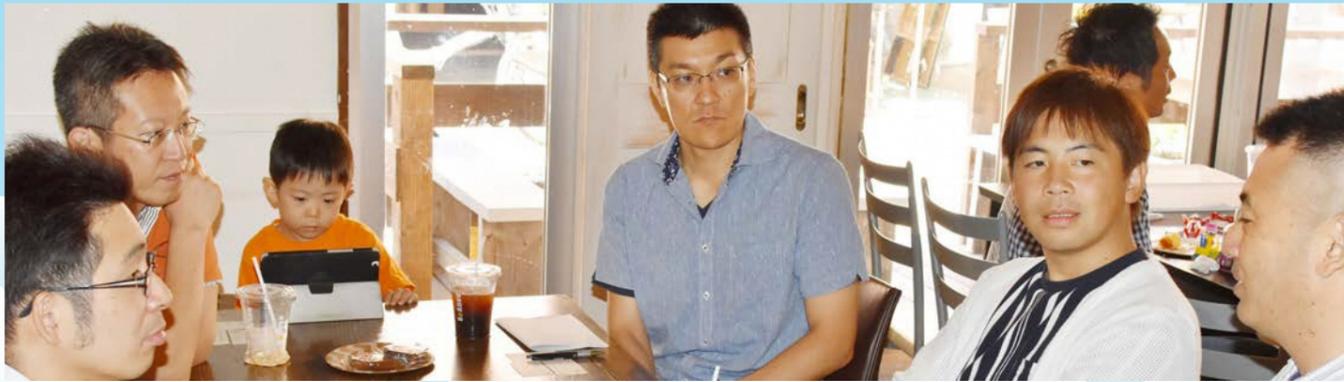
中澤 すべてが大変です。自分の思いが通らないと怒り出すイヤイヤ期の長男(3歳)、歩き始めたばかりで、階段を上ってしまう次男(11ヶ月)を一人で見てやること、とても気を遣います。上の子のイヤイヤ期の最中は、なんでも自分でやったりするので大変でした。下の子はまだそれほど手はかかりませんが、上の子が夜泣きをしたときは私も起きて抱っこして、寝不足になりました。
三上 大変だったことは子どもの「病気」ですね。下の子を妊娠していた妻が切迫早産になり、上の子と2か月以上2人で生活することになった時、上の子がインフルエンザになったんです。2週間仕事を休まざるを得ない状況になり、育児休業を利用したり、自分の兄弟を頼ったりしましたが、感染症の病気の時はなかなか難しいですね。
平山 子どもが階段を上れるようになった頃に、ふと目を離したら子どもが転げ落ちてしまい、救急病院に連れて行ったことがあります。子育てには、親が思ってもいないことをする。子育てにはイレギュラーなことが多々起きますね。

★喜びを感じる場所は？

道川 子どもが毎週「一緒に遊んであげたい」、「一緒にいたい」とくっついてくるのですが、それは嬉しいですね。
西村 上の子が「一緒にいたい」と言ってくれるので、ほぼ毎月、水族館に行っています。子どもの成長に伴い、できなかった事が徐々にできるようになり、喜びを感じられるようになっています。小さいことでも、全部新しいことなので楽しいですよ。一緒に遊んでいてニコニコしているのを見るのは本当に楽しい。

★夫婦間のコミュニケーションが大切

三上 「夫婦でミーティング」という冊子を使い、困っていること、良いことを全部「見える化」し、お互いにフォローし合っています。それでもダメなところは周りの力を借ります。夫婦で一番大事にしているのは情報共有。アプリなどでスケジュールを共有しています。
中澤 夫婦で役割分担し、おじいちゃん、おばあちゃんとの協力も得ています。
道川 家事育児で不公平感がないよう話し合ったり、喧嘩したりしています(笑)。どちらかが「自分が損している」という気分になるとダメですね。現在は私は単身赴任中ですが、週末はなるべく戻ってきて、子どもと過ごしています。
西村 私も妻も仕事をしているので、今日何があったのかを、夜に話すようにしています。休日は子どもを1日中遊びに連れて行き、妻には平日の疲れを少しでも癒してもらえようとしています。
平山 みなさんと違うところは、役割分担を決めないでスタートしたところ。お互いが大変そうだなと思ったところをフォローし合うようにしています。



★育児休業を取ってみたいですか？

西村 私は2日取りました。1日は子どもの健診、もう1日は長男を遊びに連れて行くために。朝から寝るまで集中して子育てに携わることができて、喜びを感じ、充実感がありました。
道川 子どもへの気質もあってか、我が家では1人目の育児に妻が苦労していたので、2人目が生まれたときに、もし育児休業を取っていなかったら妻の育児の不満が溜まり、夫婦仲が悪くなっていたかもしれません。育児休業を取ったことで子育てに慣れ、土日にも仕事が入る妻が安心して子どもを任せてくれるようになりました。お互い公平に育児に関われていると思えるようになり、夫婦関係において良かったと思います。

三上

道川

中澤

平山

★育児休業を取らなかったのはなぜですか？

中澤 育児休業手当で、ある程度保障されるとはいえ、収入が減ることで生活を維持するのが大変だと思い、取得しませんでした。育児休業を取りました。帝王切開で妻が長く入院していたこともあり、取りやすい状況でした。私も育児休業を取りました。育児休業は収入が減るので思い留まりましたが、取っている人が羨ましいとも思いました。育児休業を取得することで、子どもと過ごす時間が増えるのが良いと思います。

自分に、家庭に合った子育てを目指して

西村 一般的に、男性が育児休業を取るのには恥ずかしいという風潮があるのかもしれませんが、育児は夫婦での協力が重要だと思っておりますので積極的に取りましよう。取るべきだと思います。
道川 育児休業を取れる人は積極的に取ったほうが良いと思いますが、子どもをどう育てるかという方法のひとつだと思います。自分たちのプランや生活スタイルに合わせて、夫婦で納得できるように合意形成しておくことは大事だと思います。
中澤 妻が育児休業を終えて働き始めてからも、子どもの病気や入院といった困難がありました。復帰後という風にやってみても重要なことだと思います。
三上 20年後、30年後に後悔したくない、子どもと過ごす今のこの時間は二度と戻ってこないものだから、育児休業を取得しました。取得するまでには不安もありましたが、取得した今、自分だけではない、妻や娘の心にも余裕ができました。

座談会を終えて

平山さん(ファシリテーター)より

今回の座談会の参加者共通のポイントは「コミュニケーション」が大切ということでした。子育てでは、それぞれの地域、家族のスタイルに合う方法を選ぶことができるのか、周りにもサポートしてもらえないのかなどが重要な鍵になります。子育てのために取得するのが育児休業であっても、有休(育児休業など)であっても、それはあくまで一つの手段。どのような方法を選択するか、夫婦間だけでなく、職場とコミュニケーションをとることが大切です。これからは、仕事ばかりではなく、家事や子育て、地域活動や社会貢献の全てを楽しむ、ハイブリッドな人生を送る「笑っているパパ」が増えたいと思います。



ファシリテーター



道川貴生さん
公務員・お子さん2人
育児休業取得

西村勇樹さん
会社員・お子さん2人
育児休業取得

平山健一さん
ファザーリングジャパン所属
お子さん2人
育児のため休暇取得

中澤寛将さん
公務員・お子さん2人
育児のため休暇取得

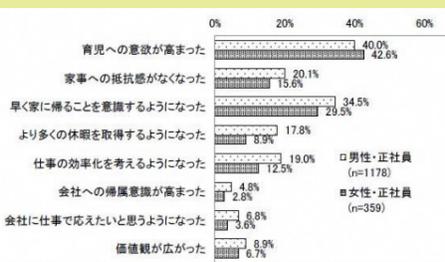
三上大介さん
会社員・お子さん2人
育児休業取得中

覚えておこう! 育児休業と育児休暇の違い

法律に基づいて取得することのできる休業制度。子が1歳(一定の場合は、最長で2歳)に達するまで(父母ともに育児休業を取得する場合は、子が1歳2か月に達するまでの間の1年間<パパママ育児プラス>)、申出により育児休業の取得が可能であり、一定の要件を満たすと育児休業給付の支給(育児休業開始から6か月までは休業開始前賃金の67%相当額、それ以降は50%相当額)を受けることができる。

★ファザーリングジャパン…<https://fathering.jp>
「Fathering(父親であることを楽しもう)」の理解・浸透を目的として2006年発足した団体。2007年からは特定非営利活動法人(NPO法人)として、様々な父親支援事業を実施している
★三上さんが参考にされた厚生労働省のウェブサイト…<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/O000130583.html>

休暇・休業の取得による夫の変化



育児休業や休暇の取得が育児・家事シェアのきっかけになるのは!
出典:平成29年度仕事と育児の両立に関する実態把握のための調査研究事業報告書

育児休業取得率と育児休業取得期間割合



出典:厚生労働省ホームページ(<https://kumen.project.mhlw.go.jp/library/resource/>)

夫婦の家事・育児関連時間国際比較



日本の男性の家事・育児関連時間は20年前と比較して2倍以上になったものの、女性と比較すると6分の1という結果に。

データで見る育児参加